

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171300082
法人名	有限会社 共生の里
事業所名	グループホーム共生の里 小城
訪問調査日	平成19年11月20日
評価確定日	平成20年1月18日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	41713000082		
法人名	有限会社 共生の里		
事業所名	グループホーム 共生の里 小城		
所在地	佐賀県小城市小城町字廿地212番地5 (電話) 0952-73-5127		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年1月18日

## 【情報提供票より】(平成19年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤	4人, 非常勤 12人, 常勤換算 7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階~2階部分		
------	----------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15000~30000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	270 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月 20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 84.87歳	最低	65歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらまつ病院・中多久病院・ウツィデンタルクリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

水のきれいな環境に恵まれた土地で、ゆっくりした時間の流れで生活が営まれている。一人ひとりの生活が確保され、それぞれのペースを職員がサポートしている。人としての尊厳を大切にし、職員と協働している。日常生活で特別に取り決めた時間割や行動計画は無く、その日そのときの状況で外出したり行事が行われている。利用者はゆっくり、職員は常に目配りや声掛けやサポートにさりげなく行動している。普通の家庭の日常が感じ取れるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者の状態によって施設するしかない場合、家族の理解を得たうえで施設しているが、その状態が日常にならないよう職員間で意識しながら対応している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の充実した配置を進めながら、広報誌を一月でも早く発行することに取り組んでいる。今以上に地域での理解が深められることが期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今までの会議はホームや認知症を知ってもらう段階であったが、これを一歩進め理解を得てより多くの方に理解を広げる場になるよう更なる充実を期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>状況報告書に家族からの意見など返信する欄も設け、家族の思いを引き出す手立てがなされている。介護計画においても個別に話ができるよう対応がされており、話がしやすい状況を作っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者の状態によって以前は清掃活動に参加していたが、現在は参加できる方も少なくなっており、今後の地域との交流や地域参加の方法等について更なる発展を期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰もが地域の中で生活できることを目指している。利用者が家庭的な雰囲気の中で地域と繋がりをもち生活をする、何事においても利用者が中心であることを理念にあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員全員が理念を理解し業務に従事するよう朝礼などで伝達し、日常的にも生活の中で気づいたことをその都度指導している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の状態にあわせ、参加できる方と職員が一緒に、地域の行事や清掃活動などに参加している。また地域の方が高齢者のことなどで相談に訪れたりという関係もできている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員が自己評価をし、振り返ることで日常のサービスを見直したり、運営会議や研修会で意見を出し合い建設的に取り組む材料としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は推進会議でホームについて知ってもらうことから始め、評価での内容について取り組んでいく場に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で包括支援センターと話ができる関係が築かれ、福祉事務所との繋がりもあり多方面にネットワークが広がっている。県の職員の研修なども受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書と同封して、家族に入居者個人の状況報告書や立替払いの明細などを郵送し報告している。状況報告には食事・入浴・排泄・精神面など個々に報告がなされ、家族からの意見や要望を記入する欄も設け多方向の連絡体制が築かれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族が月に一度は利用料の支払いで訪問されるため、話をし要望など引き出す手立てがとられている。また年に一度程度家族会を開き、午前中は家族間で交流する時間を設けるなど、幅広い意見交換の環境が作られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を防ぐため異動がある場合は適材適所の配置に配慮した計画的な異動を行っている。また職員の要望を聞き、働きやすい環境を整えている。職員の体制を計画的に考え、新規採用も慎重に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は職員育成の重要性を認識し、多くの研修等に参加している。研修後は他の職員へも伝達されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会を通してネットワークを広げ、交流や情報交換の場としている。また地域の福祉施設とも交流を持ち、質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問し、お互いに知ることから始めている。本人や家族が納得した入居につなげ、混乱が見られるときは家族に泊まってもらったりしながら徐々に馴染む努力がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が一对一で寄り添う時間を持つ努力が日常的になされ、その時間の中で入居者の思いや考えていることなどを知り、日常の行動を理解し職員が共有している。寄り添うことで入居者のできることを引き出すことにも繋がっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	短時間付き添い時間・長時間付き添い時間と分けて、触れ合いながら入居者個人から意向などを引き出す時間が計画されている。さりげなく職員と二人でおやつを持ち話をしたり、引き出した意向を長時間付き添いで実家に立ち寄りたり墓参りに出かけるなどの実現に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日誌の中に全員の介護計画のまとめが一目でわかるように記入され、入居者の状態を毎日記録し、変化が現れた時点ですぐ話し合いをしている。介護計画を決めるときは家族を訪問するなどし、意見をじっくり聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の状態を見て、少しの変化においても話し合い、見直しの検討がされている。家族には毎月の状況報告書で知らされ、家族の意向なども引き出す手立てが取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には病院の送迎は家族でお願いしているが、状況によって職員が行っている。希望で入居者の生まれたところへ出かけたり、墓参りに出かけたりもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院で受診してもらっている。職員が対応した場合でも、病院からの説明などは家族に直接対応してもらっている。かかりつけの希望がない場合は確認を取って、協力医等に診てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを考えているが、受け入れるホームの状況もそのときの職員などの状況で判断する必要がある。その前に本人・家族・医師・職員を含めた十分な話し合いが必要であることを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の排泄や入浴時の羞恥心への配慮や、言葉使いなど、日常的なケアの場面において配慮している。また記録簿の名前表示も個人情報保護の観点からも工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間も全員が一緒にということが無く、その人に合わせて食べたり時間をかけたりしている。職員は入居者を知り、一人ひとりに寄り添いながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に出かけ、一緒に調理している。食事は職員も同じ物を食べ献立の話や好みの話が食事中に話題に上がり楽しい雰囲気が作られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入りたい時間に毎日でも入れる体制を整え、無理強いすることなくお風呂を楽しんでもらっている。寝たきりの方も、居室で入浴できる配慮をしている。また足浴器で入浴されないときも、足だけ楽しんでもらうこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テレビを見たり、新聞を読んだり、音楽を聴いたり思い思いに過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも気軽にドライブに出かけたり、散歩に出かけている。ドライブは計画的ではなく、入居者の状態に応じて夜間に出かけることもある。ウッドデッキがホームの南側にあり、気候の穏やかなときには、時々そこでお茶を飲んだりして過ごしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で常に話し、共通理解をしている。入居者の状態によっては、安全のため施錠の必要があるときには、家族の了解を得た上で施錠を行っているが、常態化させる事なく、安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方にも声掛けをし、防災訓練を行っている。自動通報装置も設置されている。	○	職員だけの指導の限界を具体的に確認し地域住民や消防団等との連携を図りながら、事業所の災害時対策に関する協力体制が益々緊密なものとなるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、栄養のバランスに配慮している。1週間に一度管理栄養士に見てもらっている。水分量には気を配りいつでも飲めるようにし、お茶やゼリーなどを用意し声掛けをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音は大きすぎないよう配慮がなされ、台所の音や匂いを感じられる居間となっている。テーブル以外にソファが置かれ、横になったりして思い思いに過ごせる場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたコタツやテレビなど自由に持ち込まれ、小物や写真なども飾られている。		